

漁獲シナリオ等の検討について 今後のスケジュールについて

資源管理方針に関する検討会
～第5回ズワイガニ日本海系群A海域～

令和7年10月28日(火)

水産庁

資源管理目標の案

- 資源評価に基づき研究機関から提案されている資源管理目標の案を採用する。

項目	新しい案	現行
目標管理基準値 ＝MSYを達成するために維持・回復させるべき 目標となる親魚量	2.6千トン	3千トン
限界管理基準値 ＝下回ってはいけない資源水準の値（過去最低 の親魚量）	1.5千トン	1.5千トン
禁漁水準 ＝MSYの10%の漁獲量が得られる親魚量	0.2千トン	0.1千トン

※親魚量は雌のみ

漁獲シナリオの案

- 研究機関から提示された漁獲シナリオの案は、親魚量が10年後の2036年に、50%以上の確率で目標管理基準値を上回るよう、親魚量の値に応じ、漁獲圧力を調整。
 - 親魚量の値が限界管理基準値を上回っている場合には、MSYを達成する水準に調整係数(β)を乗じた漁獲圧力とする。
 - 親魚量の値が限界管理基準値を下回っている場合には、当該親魚量の値から禁漁水準を減じた値を、限界管理基準値から禁漁水準値を減じた値で除すことにより算出した係数を、上記に基づき算出した値に乗じた漁獲圧力とする。
 - 親魚量の値が禁漁水準値を下回っている場合には、漁獲圧力は0とする。
- 研究機関からは、資源評価の不確実性も考慮して、 $\beta = 0.8$ が推奨されている。

表1. 将来の平均親魚量 (千トン)

2036年漁期に親魚量が目標管理基準値案 (2.6千トン) を上回る確率													
β	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	2036	
1.0	7.1	4.6	2.6	1.8	2.6	2.6	2.6	2.6	2.6	2.6	2.5	2.4	30%
0.9		4.7	2.8	2.0	2.8	2.9	2.9	2.8	2.8	2.8	2.8	2.7	73%
0.8		4.9	3.0	2.1	3.1	3.1	3.2	3.2	3.1	3.1	3.1	3.0	90%
0.7		5.1	3.2	2.3	3.3	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.4	96%
現状の漁獲圧		5.5	3.6	2.7	3.9	4.1	4.2	4.2	4.2	4.2	4.2	4.2	99%

表2. 将来の平均漁獲量 (千トン)

β	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	2036
1.0	3.7	6.4	4.4	2.7	2.4	2.6	2.9	2.9	2.9	2.9	2.9	2.8
0.9		5.9	4.2	2.6	2.3	2.5	2.9	2.9	2.9	2.9	2.9	2.8
0.8		5.4	3.9	2.5	2.2	2.4	2.8	2.8	2.8	2.8	2.8	2.8
0.7		4.8	3.6	2.3	2.1	2.3	2.7	2.7	2.7	2.7	2.7	2.7
現状の漁獲圧		3.7	2.9	2.0	1.8	2.0	2.4	2.4	2.4	2.4	2.4	2.4

(出典)令和7年度ズワイガニ(日本海系群A海域)資源評価結果

今後のスケジュールについて

R7年 6月23日	第4回SH会合 ・ 現行の資源管理方針及び資源の状況等について説明 ・ 今後SH会合で検討すべき事項について説明・議論
9月26日	資源評価結果公表
10月28日	第5回SH会合 ・ 令和7年度資源評価結果について説明（資源管理の目標（案）及び漁獲シナリオの検討） ・ 資源管理目標、漁獲シナリオ等の議論
R8年3月	第6回SH会合 ・ 資源管理目標、漁獲シナリオ等の議論の続き ・ 議論の取りまとめ
4月	パブリックコメント開始 （SH会合の取りまとめを反映した、資源管理方針の変更（案））
5月	水産政策審議会資源管理分科会 ・ 資源管理方針の変更（案）に対する意見聴取 ・ 令和8（2026）管理年度のTAC及びその配分（案）に対する意見聴取
6月	資源管理方針の変更及び令和8管理年度のTACの決定
7月	変更後の資源管理方針等に基づくTAC管理開始

本日の検討会はこちら